

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	408C トリプルクラウン	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.040	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：408C トリプルクラウン

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

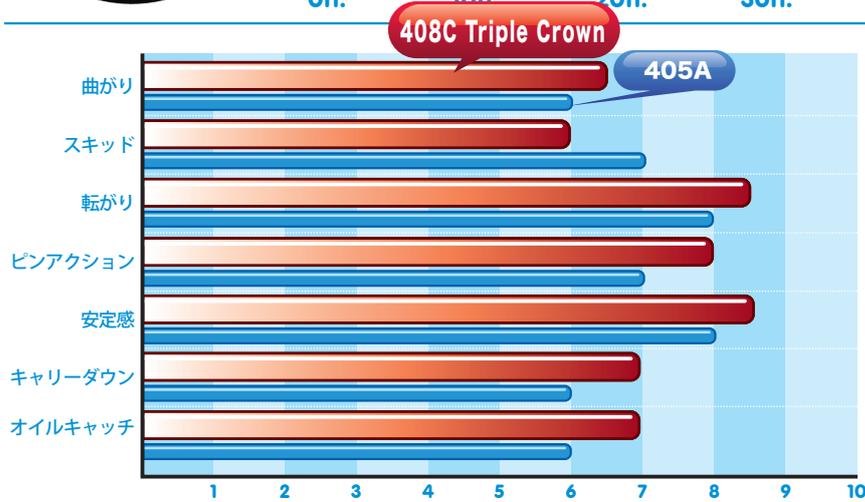
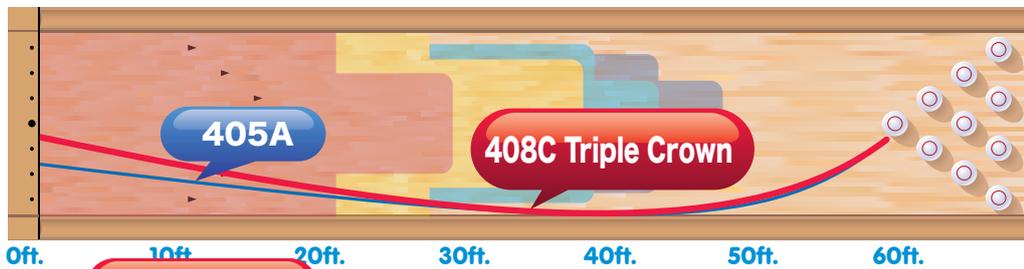
比較対照ボール：405A

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



ボールの評価

ABS専属の川添将太プロの2010年、2011年2年連続の三冠王はトラック社408Cと408C Encoreがなければ成し得なかったといっても過言ではないほど川添プロを支えた武器であり、そして多くのユーザーに愛され支えられたボールでもあります。今回の408C TCは、「TC (TRIPLE CROWN)」三冠王川添プロモデルとしてリメイクされ発売されます。

何と言ってもこの408Cの良い部分は、「順応性に長けている」ということでしょう。ほぼ初代キネティックに近いスペックで多くのボウラーが表面を曇らせたり、光らせたりして、タイプの違う幅広いボウラーが各々の領域で使えるほどタイプを選ばず、表面加工やレイアウトを変えて2個持つことや買い足す姿も珍しくありませんでした。「多くのボウラーが良いと思う」ことが408Cの評価であり、キネティックの評価でした。私たちABSボール開発チームは市場調査の中で聞く「シャトルコア」の評価を真摯に受け止め、ユーザーの気持ちに応えるべく408Cをトリプルクラウンの称号での復刻を決めました。日本で多くの方が信頼をおくシャトルコアに「4」のカバー特性でも強めに分類できるカバーストックを纏い、ミッドエリアからコントロール性能を如何なく発揮しながらしなやかに独特の切れ味を魅せるリアクション。やはりそれが408Cの真骨頂と言えるでしょう。実は初期シャトルコア時代から密かに比重調整のため使用されていたMagnetite素材はあの当時から柔らかいピンアクションを生み出し、魅了の一つにもなったと思います。ミッドプライスで高性能、そして何より408Cやキネティックと同等のリメイクであれば揺るぎのない「鉄板商品！」2013年もこのボールから始まり、また「冠」を付けるのはだれか。多くのボウラーがこの408C TCに支えられることでしょう。

特記事項

ユーザーの復刻を望む声が多く、トリプルクラウンの称号を得ての発売です。即日完売の可能性もあります。オーダーはお早めに。